

教科	外国語	科目	中国語入門	単位数	2
学年	2年	類型	地域ビジネス科		
教科書(出版社)	高校生からの中国語(白帝社)				
副教材(出版社)					
授業の概要	1 各レッスンでテーマに応じた文法事項を学び、読んだり書いたりして練習する。 2 中国語の決まりや文の形を正しく理解し身に付ける。				
授業の目標	1 ペアやグループ学習を通して、自分の考えを相手に正しく理解してもらえよう、積極的に会話練習を行う。 2 中国語によるコミュニケーション能力の向上を図る。				
年間 学習 計画	学習内容(単元・項目)		学習目標		
	1 学期	発音: 母音1 発音: 声調 発音: 子音1 発音: 母音2 発音: 子音2 発音: 母音3 発音: 母音4 声調の発音 唐詩: 春曉 第1課: 私は高橋美恵です 第2課: 私は希望高校の生徒です	・様々な種類の「発音」を学び、中国語独特の母音と子音の発音を身に付ける。 ・「声調」を学び、第一声、第二声、第三声、第四声、轻声の違いを聞き分ける。  ・唐詩を音読し、発音練習の総まとめをする。 ・「姓」と「叫」の使い方を学び、簡単な自己紹介をする。 ・数字と数え方、量詞「个」、「几」や「多少」の使い方を学び、自分の学校を紹介する。		
	2 学期	第3課: 私は東京に住んでいます 第4課: 私は6時半に起きます 第5課: 私は絵を描くのが好きです 第6課: 自己紹介 第7課: どこで会いますか 第8課: 希望高校へどう行きますか 第9課: いくらですか 第10課: どこに行きましたか	・家族の呼称、動詞「在」の使い方を学び、自分の家のことについて紹介する。 ・時刻の言い方、時間を表す言葉の順序を学び、一日の生活を紹介する。 ・「喜欢」の使い方を学び、自分の趣味や好きなことを紹介する。 ・年齢の聞き方や言い方を学び、自己紹介のまとめをする。 ・月、日の言い方や「在」の使い方を学び、待ち合わせの約束をする。 ・「怎么」+動詞、所要時間の聞き方と言い方を学び、目的地までの行き方や所要時間を尋ねる。 ・「还是」、指示代名詞の使い方を学び、買い物ができるようにする。		
	3 学期	第11課: 中国に行きたいです 第12課: 中国の友達への手紙 第13課: 中国の文化・伝統・芸術に触れ、理解を深める。	・「了」、形容詞の反復疑問文を学び、行動や感想について話す。 ・「想」、動詞+時間の長さについて学び、計画や希望を伝える。 ・手紙の形式、決り文句について学び、手紙を書く。 ・中国の文化・伝統・芸術に触れ、理解を深める。		
観点別 評価	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
	単語、熟語、文法などについて、その意味や適切な使い方を理解している。日本語との文構造、文化の違いに興味を持っている。		学んだ文法を使って、自分のことや考えなどを書くことができる。また、それらを活用して、まとまった文章を書くことができる。		コミュニケーション活動を意欲的に図ろうとしている。学んだ文法を積極的に使おうとしている。
備考	学期ごとに3つの観点に基づき観点別学習状況を、A・B・Cの3段階で評価する。観点別学習状況に基づき、学期ごとに100点法で評価する。学年末には各学期の評価を平均し、総合的に評価する。				

教科	家庭	科目	家庭基礎	単位数	2
学年	2年	類型	地域ビジネス科・商業科		
教科書(出版社)	家庭基礎 自立・共生・創造 (東京書籍)				
副教材(出版社)	家庭科ノート、調理実習ノート (愛媛県高等学校家庭科教育研究会編)				
授業の概要	「人の一生と家族・家庭及び福祉」「衣食住の生活の自立と設計」「持続可能な消費生活・環境」「ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動」で構成。内容は、実践的・体験的な学習活動を中心とし、相互に関連を図りながら学習する。				
授業の目標	人の一生と家族・家庭、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、家庭生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。				
年間 学習 計画	学習内容(単元・項目)		学習目標		
	1 学期	第1章 生涯を見通す	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ライフスタイルと将来の家庭生活および職業生活について考察し、生活設計を工夫する。</li> <li>・家族・家庭と社会の関わりについて理解し、男女が協力して、家庭を築くことの重要性について考察する。</li> <li>・自立した消費者として、経済生活をマネジメントする力を身に付ける。</li> <li>・持続可能な社会を目指して主体的に行動する。</li> <li>・健康・快適・安全な住生活を主体的に営むために、実践的・体験的な学習活動を通して知識や技能を身に付ける。</li> <li>・ホームプロジェクトの計画を立てる。</li> </ul>		
		第2章 人生をつくる			
		第9章 経済生活を営む			
	2 学期	第10章 持続可能な生活を営む	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームプロジェクトを各クラスで発表する。</li> <li>・超高齢社会の現状と課題について学び、高齢者の自立生活を支えるために家族や地域及び社会の果たす役割の重要性について考察する。</li> <li>・乳幼児期の心身の発達と生活について理解し、子どもを産み育てることの意義について考える。</li> <li>・福祉や社会的支援について理解し、社会の一員として共に支え合って生活することの重要性について考察する。</li> <li>・健康・快適・安全な衣生活を主体的に営むために、実践的・体験的な学習活動を通して知識や技能を身に付ける。</li> </ul>		
		第8章 住生活をつくる			
○家庭クラブ・HPについて					
3 学期	第4章 超高齢社会を共に生きる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康・快適・安全な食生活を主体的に営むために、実践的・体験的な学習活動を通して知識や技能を身に付ける。</li> <li>・自分らしい生活が実現できるよう、生活設計ができる。</li> </ul>			
	第3章 子どもと共に育つ				
	第5章 共に生き、共に支える				
観点別 評価	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
	生活を主体的に営むために必要な人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などの基礎的なことについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。	生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。		
備考	学期ごとに3つの観点に基づき観点別学習状況を、A・B・Cの3段階で評価する。観点別学習状況に基づき、学期ごとに100点法で評価する。学年末には各学期の評価を平均し、総合的に評価する。				

教科	商業	科目	マーケティング	単位数	2
学年	2年	類型	流通経済科・地域ビジネス科		
教科書(出版社)	マーケティング(実教出版)				
副教材(出版社)	マーケティング準拠問題集(実教出版)				
授業の概要	経済のグローバル化や顧客のニーズの多様化など市場環境が変化する中で、顧客満足の実現、顧客の創造、顧客価値の創造などマーケティングの考え方の広がりに対応して、効果的にマーケティングを展開するために必要な資質・能力を育成する。				
授業の目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 マーケティングについて実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。</li> <li>2 マーケティングに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。</li> <li>3 ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら学び、マーケティングに主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</li> </ol>				
年 間 学 習 計 画	学習内容(単元・項目)		学習目標		
	1 学 期	第1章 マーケティングの概要	・マーケティングの意味と歴史、環境の分析・実行手順について理解する。		
		第2章 消費者行動の理解	・消費者の製品やサービスの購買意思決定過程を学び、それらに影響を与える要因を理解する。		
		第3章 市場調査	・市場調査の意義と手段について学び、実態調査の種類についても学ぶ。		
		第4章 STP	・市場を細分化しマーケティングの対象である消費者を選択し、製品やサービスのイメージを整理する。		
		第5章 製品政策	・製品の捉え方について理解し、どのような製品を開発し、生産する計画をたてるか、一連の手順を理解する。		
	2 学 期	第6章 価格政策	・製品やサービスの価格設定に関する活動について学び、価格が企業の売上や利益に直結するものであることを理解する。		
		第7章 チャンネル政策	・企業が消費者に製品を購入してもらうための販売経路について理解する。		
		第8章 プロモーション政策	・消費者の購買行動を促進する様々なプロモーションの種類と特徴について理解する。		
3 学 期	第9章 マーケティングのひろがり	・これまでのマーケティングの考え方を深め、様々な分野への応用やひろがりについて理解する。			
観点別評価	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
	企業において考えられる事例と実際のマーケティングとを関連付けてビジネスの場面で役立つマーケティングに関する知識と技術を身に付けている。	知識・技術を活用し課題を見つけ、企業活動の社会的影響を踏まえたうえで、顧客の理解、市場動向マーケティング理論、データ、成功事例や改善事例などを科学的根拠により解決することについて考えている。	ビジネスを展開する力を向上させるために学ぶ態度や自己の役割を認識して当事者意識をもち、他社との信頼関係を構築して市場調査の実施からの各政策の企画、実施に責任をもって取り組んでいる。		
備考	学期ごとに3つの観点に基づき観点別学習状況を、A・B・Cの3段階で評価する。観点別学習状況に基づき、学期ごとに100点法で評価する。学年末には各学期の評価を平均し、総合的に評価する。				

教科	商業	科目	観光ビジネス	単位数	2
学年	2年	類型	地域ビジネス科		
教科書(出版社)	観光ビジネス(実教出版)				
副教材(出版社)	事例探求ワークブック観光・地域活性化(実教出版)				
授業の概要	1 地域と連携した活動を通して、地域に対する誇りと愛情を醸成し、地域活性化に対する使命感を持つ。 2 学校の内外において、実践的・体験的な学習を行う。				
授業の目標	1 観光ビジネスについて実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 2 観光ビジネスに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。				
年間 学習 計画	学習内容(単元・項目)		学習目標		
	1 学期	1 ガイダンス (1) なぜ観光について学ぶのか (2) 伝統文化と異文化がもたらすもの 2 事例学習 (1) 寺や城に泊まれる (2) E-DMOでエコツーリズムを推進 (3) ガラス工芸で観光都市化	・学習の目標と心得、学習方法を理解する。 ・企業の経営戦略や社会的責任、地域の現状や地域に対する経営者の思い等について理解し、地域への愛情と誇り、所属意識を醸成する。 ・県内で、新たな観光名所になる可能性のある身近な場所を発掘し、そこでの観光プランを立案する思考力を醸成する。 ・町全体の取り組む実践を知ること、地域に様々な要素が付加価値として生まれ、商品やサービスの充実につながる地域一体となった経済活動につながることを理解する。		
	2 学期	3 ツアープランの作成 (1) 班別実習 (2) ツアープランのまとめ (3) 実態調査 4 事例学習	・身近な観光資源を調べることによってそれらの価値を知り、それらを活かす方法を話し合わせることで、観光資源の活用方法について理解を深める。 ・観光資源と観光政策に関する知識などを基盤として、消費者の動向、観光資源の活用や観光政策に関する具体的な事例など、観光資源の効果的な活用について、組織の一員としての役割を果たすことができる技術を習得させる。		
	3 学期	4 事例学習 5 自己評価	・地域活性化等に関する取組事例から、地域の諸課題についての理解を深め、地域活性化へ向けた使命感を養う。 ・班別実習の成果を共有する。 ・一人一人が、自分だけの特別な経験を蓄積する。		
観点別 評価	知識・技術		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
	地域の現状や課題、地域に暮らす人々の現状を理解し地域活性化を担う使命感を持つことができているか。 自らの考えを他者に的確に伝えることができる。		実践的、体験的な活動を通して獲得した知見をもとに、地域に活力や魅力を与えるためには何をしなければならないか、自らのアイデアを持っている。		地域の現状や課題、地域に暮らす人々の願いについて理解しようとしているか。 積極的な態度でワークショップや実習に参加している。
備考	学期ごとに3つの観点に基づき観点別学習状況を、A・B・Cの3段階で評価する。観点別学習状況に基づき、学期ごとに100点法で評価する。学年末には各学期の評価を平均し、総合的に評価する。				



教科	商業	科目	財務会計Ⅰ	単位数	2
学年	2年	類型	地域ビジネス科		
教科書(出版社)	新財務会計Ⅰ(実教出版)				
副教材(出版社)	完全段階式標準検定簿記問題集1級会計(東京法令出版)				
授業の概要	財務諸表に関する基礎的な知識と技術を習得する。また、利害関係者に会計情報を提供する能力と態度及び、提供された会計情報を活用する能力と態度を身に付ける。				
授業の目標	1 財務諸表の作成に関する知識と技術を習得する。 2 財務会計の意義や制度について理解する。 3 会計情報を提供し、活用する能力と態度を身に付ける。				
年間学習計画	学習内容(単元・項目)		学習目標		
	1学期				
	2学期	第Ⅰ編 財務会計の基礎 第1章 企業と会計 第2章 企業会計制度と会計法規 第3章 貸借対照表のあらまし 第4章 資産の意味・分類・評価 第5章 流動資産(当座資産) 第6章 流動資産(棚卸資産・その他の流動資産)  第Ⅱ編 貸借対照表 第7章 固定資産(有形固定資産) 第8章 固定資産(無形固定資産)	・利害関係者への適正な会計情報の提供及び、提供された会計情報の活用を行えるようにする。 ・企業会計の意義と役割、財務会計の機能及び会計法規と会計基準について学び、財務会計の概要について理解する。 ・貸借対照表の意味と役割を理解する。 ・貨幣性資産と費用性資産の概略を理解する。 ・当座資産の意味および種類を理解する。 ・棚卸資産の取得原価と費用配分の原則について理解する。 ・有形固定資産の取得原価の計算方法を習得する。 ・無形固定資産の取得原価の計算方法を習得する。		
	3学期	第9章 固定資産(投資その他の資産) 第10章 負債の意味と分類 第11章 流動負債 第12章 固定負債 第13章 純資産の意味と分類 第14章 資本金 第15章 資本剰余金 第16章 利益剰余金 第17章 自己株式 第18章 新株予約権	・投資その他の資産の意味と種類および期末評価について理解する。 ・負債の意味と分類について、基礎知識を習得する。 ・引当金の意味と評価性引当金・負債性引当金の区別を明らかにし、流動負債に属する引当金を理解する。 ・株式会社の資本の意味と計算を習得する。 ・資本準備金、その他資本剰余金に関する処理を理解する。 ・自己株式の取得・処分・消印の会計処理を理解する。 ・新株予約権の発行・行使の会計処理を習得する。		
観点別評価	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
	会計情報を利害関係者に提供する能力と態度及び提供された会計情報については、ビジネスの諸活動に適切に活用する能力と態度を身に付けている。	会計に関する法規や基準の変更に対応し、適切な財務諸表を作成したり、利害関係者にとって有用性の高い分析をしたりするなど、主体的な判断を基に正確な作業ができる。	財務会計に関する学習に興味・関心を持ち、授業や課題に対して意欲的に取り組むなど、知識の深化と技術の向上に努めている。		
備考	「原価計算」とのまとめ取りにより、10月から3月まで実施する。学期ごとに3つの観点に基づき観点別学習状況を、A・B・Cの3段階で評価する。観点別学習状況に基づき、学期ごとに100点法で評価する。学年末には各学期の評価を平均し、総合的に評価する。				

教科	商業	科目	原価計算	単位数	2
学年	2年	類型	地域ビジネス科		
教科書(出版社)	原価計算(東京法令出版)				
副教材(出版社)	最新段階式 簿記検定問題集全商1級原価計算(実教出版)				
授業の概要	製造業における工業簿記の記帳法と、原価計算の基本的な考え方、知識と技術を習得する。また、原価計算によって得られる情報を効果的に活用するための能力と態度を育てる。				
授業の目標	1 原価計算に関する基本的・基礎的な知識と技術を身に付ける。 2 製造業において行われる取引・活動を計数的に把握し、活用する学習を通して、原価に対する理解を深める。				
年間学習計画	学習内容(単元・項目)		学習目標		
	1学期	第Ⅰ編 原価と原価計算 第1章 原価の概念と原価計算 第2章 原価計算の特色と仕組み 第Ⅱ編 原価の費目別計算 第1章 材料費の計算と記帳 第2章 労務費の計算と記帳 第3章 経費の計算と記帳 第Ⅲ編 原価の部門別計算と製品別計算 第1章 個別原価計算と製造間接費の計算 第2章 部門別原価計算 第3章 総合原価計算 第Ⅳ編 内部会計 第1章 製品の完成と販売 第2章 本社・工場会計 第3章 製造業の決算	・原価の概念、原価計算の目的、製造業における簿記の特色としくみについて学び、原価計算の概要について理解する。 ・材料費、労務費及び経費の計算と記帳をとおして、原価の費目別計算を行うための基礎的な知識と技術を習得する。 ・個別原価計算、部門別個別原価計算、総合原価計算について学び、原価の部門別計算と製品別計算の行うための基礎的な知識と技術を習得する。 ・製品の完成・販売と本社・工場間の取引の記帳方法及び製造業の決算について学び、製品の完成・販売に関する会計処理と決算を行うための基礎的な知識と技術を習得する。		
	2学期	第Ⅴ編 標準原価計算 第1章 標準原価計算の目的と手続き 第1章 原価差異の原因別分析 第Ⅵ編 直接原価計算 第1章 直接原価計算の目的と財務諸表の作成 第2章 短期利益計画への活用	・標準原価計算の目的と手続き、原価差異の原因分析及び損益計算書の作成をとおして、標準原価計算を行うための基礎的な知識と技術を習得する。 ・直接原価計算の意義・目的・方法・手続き及び全部原価計算との違いについて理解させる。 ・固定費調整の意義・方法について理解させる。 ・直接原価計算が短期利益計画に有用な情報を提供できることを理解させ、損益分岐分析(CVP分析)の方法を習得する。		
	3学期				
観点別評価	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
	原価計算に関する会計処理及び原価情報の活用に関する理論的な知識と技術に加え、実務と関連付けられビジネスの様々な場面で役に立つ知識と技術が身に付いている。	原価計算をはじめとした様々な知識、技術などを活用し、理論や企業活動の流れなど科学的な根拠に基づいて工夫し、より良く課題に対応する力が身に付いている。	他者と信頼関係を構築して積極的にかかわり、原価の費目別計算、部門別計算、製品別計算などの原価情報の提供と効果的な活用に責任を持って取り組む態度が身に付いている。		
備考	「財務会計Ⅰ」とのまとめ取りにより、4月から9月まで実施する。学期ごとに3つの観点に基づき観点別学習状況を、A・B・Cの3段階で評価する。観点別学習状況に基づき、学期ごとに100点法で評価する。学年末には各学期の評価を平均し、総合的に評価する。				

教科	商業	科目	ソフトウェア活用	単位数	2
学年	2年	類型	流通経済科・地域ビジネス科・商業科		
教科書(出版社)	ソフトウェア活用(実教出版)				
副教材(出版社)	情報処理検定模擬試験問題集ビジネス情報1級(実教出版) ビジネス文書実務検定模擬試験問題集1級(実教出版)				
授業の概要	企業活動を円滑に行うために、今日においてはソフトウェアを活用することが必要不可欠となっていることから、活用するために必要な能力・態度を身に付ける。				
授業の目標	商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、企業において情報を適切に扱うために必要な資質・能力を育成することを目指す。				
年間 学習 計画	学習内容(単元・項目)		学習目標		
	1 学期	第1章 企業活動とソフトウェアの活用  第2章 情報通信ネットワークの活用  第3章 表計算ソフトウェアの活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>身近な事例を基にビジネスにおけるソフトウェアの活用を考え、ソフトウェアの意義と重要性を理解する。</li> <li>ネットワーク機器の機能や情報技術の進歩に伴う通信手段の変化について理解し、それを活用する機器類の基本的な利用方法や、障害等に対処するための基本的な技術を身に付ける。</li> <li>表計算ソフトウェアを通して、情報の集計と分析について理解し、様々な集計方法や分析結果を適切に表現する能力を身に付ける。</li> </ul>		
	2 学期	第4章 データベースソフトウェアの活用  第5章 業務処理用ソフトウェアの活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>リレーショナルデータベースの特徴や基本的な機能を理解するとともに、データベースソフトウェアを活用するための知識と技術を身に付ける。</li> <li>SQLを用いた汎用的なデータベースの操作方法について理解する。</li> <li>それぞれの業務処理用ソフトウェアを活用することの利点と、各ソフトウェアを活用して効率的に業務を行う方法について理解する。</li> </ul>		
	3 学期	第6章 情報システムの開発	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報システムの開発に関する基礎的な知識、技術について実務に即して理解するとともに、表計算ソフトウェアやデータベースソフトウェアによる情報システムの開発と関連付けて理解を深める。</li> </ul>		
観点別 評価	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
	企業活動におけるソフトウェアの活用について、実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付ける。	企業活動におけるソフトウェアの活用に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な子根拠に基づいて創造的に解決しようとしている。	企業活動を課改善する力の向上を目指して自ら学び、企業活動におけるソフトウェアの活用に主体的かつ協同的に取り組もうとしている。		
備考	学期ごとに3つの観点に基づき観点別学習状況を、A・B・Cの3段階で評価する。観点別学習状況に基づき、学期ごとに100点法で評価する。学年末には各学期の評価を平均し、総合的に評価する。				

教科	商業	科目	松山学Ⅱ	単位数	2
学年	2年	類型	地域ビジネス科		
教科書(出版社)	学校設定科目「松山学Ⅱ」(松山商業高校)				
副教材(出版社)					
授業の概要	1 地域と連携した活動を通して、地域に対する誇りと愛情を醸成し、地域活性化に対する使命感を持つ。 2 学校の内外において、実践的・体験的な学習を行う。				
授業の目標	1 松山や愛媛の経済や観光、文化、歴史、産業などへの理解を深めさせるとともに、地域社会の現状や願いについて理解させ、地域の様々な課題について主体的に考察する。 2 観光産業や地場産業の振興などについて考えさせるとともに、地域活性化に寄与する具体的な実践活動を行わせることで、松山や愛媛の未来を担う人材として必要な能力と態度を育成する。				
年間 学習 計画 画	学習内容(単元・項目)		学習目標		
	1 学期	1 ガイダンス (1) 「松山学」について (2) 「1000日実習」 2 班別学習 【A班】防災先進地域訪問と防災啓発活動の推進 【B班】観光プランの立案と観光ツアーガイドの実践 【C班】外国人観光客等おもてなし活動の実践	・学習の目標と心得、学習方法を理解する。 ・企業の経営戦略や社会的責任、地域の現状や地域に対する経営者の思い等について理解し、地域への愛情と誇り所属意識を醸成する。 ・防災に関する地域の現状について、理解するとともに、地域の防災意識を高めるためにできることを考える。 ・県内で、新たな観光名所になる可能性のある場所を発掘し、そこでの参加・体験型の観光プランを考える。 ・外国人観光客等のおもてなし活動を実践するために必要な資料を収集し、それらを英語や中国語で紹介できるよう準備する。		
	2 学期	2 班別学習 【A班】防災先進地域訪問と防災啓発活動の推進 【B班】観光プランの立案と観光ツアーガイドの実践 【C班】外国人観光客等おもてなし活動の実践 3 「ふるさとふれあい塾」	・防災先進地域等を訪問し、防災に関する知識と技術を習得する。フィールドワーク等を行い、防災に関する地域の現状についての理解を深める。 ・保護者や学校評議員を観光客に見立て、企画した参加・体験型の観光プランに沿って、生徒が添乗員となりツアーガイドを実践する。 ・道後温泉周辺や近隣の観光名所において外国人観光客等のおもてなし活動を実践する。 ・松山の良さを再確認するとともに、ホスピタリティ精神を向上させ、松山の魅力を自信を持って案内できるようになる。		
	3 学期	4 地域の諸課題 5 班別実習報告会 6 自己評価	・地域活性化等に関する取組事例から、地域の諸課題についての理解を深め、地域活性化へ向けた使命感を養う。 ・班別実習の成果を共有する。 ・一人一人が、自分だけの特別な経験を蓄積する。		
観点別 評価	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
	地域の現状や課題、地域に暮らす人々の願いについて理解しようとしている。 地域の課題を解決する活動や地域貢献活動を推進し、地域に活力や魅力を創出できている。	実践的、体験的な活動を通して獲得した知見をもとに、地域に活力や魅力を与えるためには何をしなければならないか、自らのアイデアを持っている。	積極的な態度でワークショップや実習に参加している。		
備考	学期ごとに3つの観点に基づき観点別学習状況を、A・B・Cの3段階で評価する。観点別学習状況に基づき、学期ごとに100点法で評価する。学年末には各学期の評価を平均し、総合的に評価する。				